

東京マラソン 2025、障害のある日米ランナーが「シックススター」を達成

3月2日に開催された東京マラソンで、日米の障害者ランナー3人がシックススターフィニッシャー・メダルを獲得しました。シックススターとは、アボット・ワールドマラソンメジャーズ（※1）が選定した世界6大マラソン（ボストン・ロンドン・ベルリン・シカゴ・ニューヨーク・東京）を制限時間内に完走したランナーに与えられる名誉ある称号です。

全盲の町田宏さん（65才）、自閉症のブランドン・エアリックさん（24才）、ハリス・ワソーさん（71才）は、いずれも障害者と一般市民が共にランニングを楽しむ国際的なスポーツ団体「アキレス・インターナショナル」（※2）のメンバーです。今回東京マラソンを完走したことで、町田さんは日本人視覚障害者としておそらく初めて、米ニュージャージー支部から参加するエアリックさんは史上13番目の若さでの受賞となりました。

アキレス・インターナショナル・ジャパンでは、米国、カナダ、オーストラリア、モンゴル、トルコなど各国から参加する障害者ランナーと伴走者など約40人を迎え、2月28日にはウェルカムパーティー、3月1日には皇居ランを開催。海外の障害者ランナーやサポーターと交流を深めました。

■ランナープロフィール

町田宏さんは視野が狭くなる網膜色素変性症という難病により、40代で光を失いました。50歳を過ぎたころアキレスを知り練習会に参加。走る喜びを得た町田さんは海外マラソンにも挑戦し、2013年のニューヨークシティマラソンを皮切りにこれまで海外5大会を完走。今回の東京マラソンでシックススターフィニッシャーの称号を手にしました。伴走者はアキレスメンバーの滝澤秀樹さん。完走を目指し、ランニングで知り合った奥様と一緒に代々木公園で開かれる練習会に参加しています。趣味はギター演奏で、ニックネームは「ぎたあ」。

ブランドン・エアリックさんは米ニュージャージー州在住。自閉症。2019年にニューヨークシティマラソンを走って以来、2022年シカゴマラソンとボストンマラソン、2023年ベルリンマラソン、2024年ロンドンマラソンを完走しています。日頃は大学の講座を受けながら、水耕栽培の野菜の会社とスーパーでアルバイトをしています。人と話すことが好きで、レースそのものに加え、ランニングを通じて出会った人々との交流や様々な国への旅行をとっても楽しんでいきます。

ハリス・ワソーさんは米ニューヨーク在住。31回のマラソンを完走、世界6大マラソンも5レースまで走破していたランナーでしたが、2021年に脳腫瘍の手術を受け、医師には

もうランニングはできないと告げられました。ある日セントラルパークでアキレスの T シャツを着たグループを目にし、障害があっても走れると知って、ランニングを再開。今回、久しぶりのマラソンに挑みました。

■アキレス・インターナショナル紹介

アキレス・インターナショナルは障害者が一般市民と共にウォーキングやランニングを楽しむことを目的に、1983年に米ニューヨークで設立されました。世界18か国に76支部を置き、アキレス・ジャパンは日本支部として1995年に発足。毎月第2・第4・第5日曜に代々木公園での練習会を実施するほか、独自のイベント「ふれあいマラソン」を開催しています。

■参考 URL

※1:

Abbott World Marathon Majors (英文)

[Abbott World Marathon Majors](#)

※2:

アキレス・インターナショナル・ジャパン (邦文)

[NPO 法人 アキレス・インターナショナル・ジャパン](#)

アキレス・インターナショナルNY本部 (英文)

[Achilles International](#)

※3:

東京マラソン

[トップページ | 東京マラソン 2025](#)

NPO 法人アキレス・インターナショナル・ジャパン

お問い合わせ: 担当 滝澤・山本 (輝)

メールアドレス toiawase@achillesinternational-japan.org

写真はゴール後にシックススターフィニッシャー・メダルを受け取った町田宏さん（後ろは
伴走者の滝澤秀樹さん）

